

「夫婦船で乗り切っど」

— ハッスル・ハッスル —

東町漁協女性部
濱 チカエ

1 地域の概要

東町は、鹿児島県の北端に位置した長島本島の南北に連なる中央山地帯を境とし、東は八代海に面し、西は長島町と接している。町内は長島本島、伊唐島、獅子島、諸浦島の4有人島と大小18の無人の島々からなっている（図1）。

人口は7,251名で、就業人口は3,696名。産業別では、第1次産業に1,498名（40.5%）、その構成は、水産業769名（51.3%）、農業724名（48.3%）、その他5名（0.3%）で、水産業は重要な位置を占めている。

2 漁業の概要

水産業は、急深で波静かな海域を活用した養殖業と漁船漁業を組み合わせ盛んである。

平成15年度における東町漁協の組合員数は、721名（図2）で、営まれている漁業種別は、磯建網、魚類養殖、のり養殖、たこつば、吾智網等となっている（表1）。

主な漁業の水揚量及び水揚げ金額の内訳は、魚類養殖業が14,678トン・99.8億円、吾智網が317トン・2.1億円、ヒトエグサ養殖が92トン・1.6億円、つり漁業が97トン・1.0億円となっており、魚類養殖の水揚高約100億円は、全国でも屈指の漁協である。（表2）。

3 研究グループの組織と運営

東町漁協女性部は、昭和36年に貯蓄推進運動を目的に20数名で発足した。現在、部員106名で、海岸清掃、天然石けんの販売とPR、料理教室等を行い、また、青壮年部と連携し、漁協事業にも積極的に参画している。

4 研究・実践活動課題選定の動機

女性部員の内漁船漁業の従事者は4名で漁船漁業に携わる女性の立場として発表したいと思った。

結婚当初、主人は、吾智網とモジャコ採捕を主体に漁業を営んでおり（図3）、私は、吾智網を時々手伝うくらいであった。モジャコ漁の時は乗り子1人に50万円を支払っていたことから、何とか経営面で1人分でも経費削減を図れないかと考え、今から12年前の平成4年、娘が4歳の時に一念発起して、主人に頼み込んで私もモジャコ漁に出ることにし、その結果、私は漁業の醍醐味に魅せられ、本格的に漁業に従事しようと決意した。そして、漁業の楽しみを抱きながら「夫婦船」で今後も漁船漁業に携わっていきたいと思うようになった。

5 研究・実践活動状況及び効果

(1) 初めてのモジャコ漁

私の所は、本船（吾智網船）の「千香丸」（4.98トン）と小型船の「ゆか丸」（1.84トン）の

2隻の船を所有しており、私と娘の名前を主人が付けてくれた。

初めてこの本船でモジャコ漁に出漁した時、最初のうちは波も穏やかであったが、進むにつれ波も高くなり予想以上に船酔いは辛く、何度となく嘔吐し吐血も度々であった。モジャコ漁は東シナ海の大海原での操業であるから、危険な事も当然ある。漁業は、板子一枚、この波の上の操業は体験した者でなければ分からないが、誰でもこの苦しみを乗り越えているのだと思い、自分にムチ打って頑張った。操業は藻を探すためひたすら船を走らせるが、数メートルもあるような藻に出会った時はワクワクしながら網を入れ、引き上げ、何十キロもモジャコを豊漁した時は、言葉に成らないほど嬉しく、辛かった事も忘れるほどであった。その小さなモジャコを丁寧に扱い、元気で大きな将来の(東)ブリ(鱒王：写真1)になってもらうように祈りつつ、又、気合を入れなおして、次の藻を目指し急ピッチで船を走らせたことを、今でも鮮明に記憶している。

(2) 夫婦での漁業活動

その後、私は、吾智網や磯建網などの漁業も夫と一緒に操業するようになり、人件費の削減や夫の負担軽減等、我が家の漁業経営にとってある程度の手助けができるようになってきた。現在、年間の大半は吾智網漁、一本釣り漁業を操業し、時季に応じてモジャコ漁、ハモ延縄、磯建網漁等を操業している(図4)。

最も大きな収入源であるモジャコ漁は、3年前に主人が怪我で体調を崩したことから、現在は休漁している。漁業収入は、モジャコ漁を操業していた時期はおよそ500万円以上/年あったが、休止以降は減額した。漁業の傍ら甘藷、馬鈴薯の生産等も営んでおり、農業との兼業化は家計面で助けとなっている。

吾智網漁、一本釣り漁業の時は、肌を刺す寒風の中や朝もやの立ちこめる早朝から日没まで、延縄漁、磯建網漁の時は、夕方及び夜間に出漁して、早朝に引き揚げるといような操業を行っている。最もハードなハモ延縄漁は、6月～8月の約2ヶ月半操業し、1日の操業スケジュールでは、市場に水揚げ後、朝8時から日中の殆どを操業準備にあて、夕方5時から真夜中1時頃まで操業しているが、私が手伝うようになってから鉢数を増やす等、操業規模を拡大してきた漁業である(図5)。ただ、日中の準備作業には体力的な限界があるため、短時間ではあるが義母が代わってくれることで仮眠をとることができ、義母の協力なしには成り立たない漁業であると、多大な感謝の念を持っている。また、主人も船上では「海の男」の厳しさを持っているが、一旦、陸に上がると家事、育児等に協力的で、非常に有り難く思っており、今ではよく周知されている「男女共同参画」を夫婦連携して、以前から実践してきている。

(3) 漁業の厳しさ

モジャコ漁に限らず、漁業は危険と常に隣り合わせと言っても過言ではない。海が穏やかな日はいいが、一旦海が荒れだすと非常に危険な状態になる。昨年4月に、同じ東町の夫婦船が甌島沖で転覆、悲惨な海難事故があった。子を持つ親として人事とは思えず、母親の無念さを思う時、例えようも無く身震いしたことが、昨日のこのようにありありと目に浮かんでくる。漁船漁業で生計をたてている者としては、そのような厳しい状況の下でも、家族のために出漁しなければならない。何故なら漁業は生涯にわたり、私達に与えられた聖職であると思っているからである。

(4) 家族の絆

夫婦船として漁業に就いてから家族内で次のようなことがあった。

平成 13 年のある日のこと、中学 2 年生になった娘が 5 月のゴールデンウィークに「私もモジャコ捕りに行ってみたい。」と言いだした。娘は小学生の頃から私たちのモジャコ漁の話を書く毎に、「私も 1 年でも早くモジャコ捕りに行ってみたい。そして父母の手伝いをしたい。」と思いつけていたと言うのである。海難事故等の最悪の事態も頭をかすめたが、本人の熱意は強く、娘の将来の為には辛く厳しい体験も必要ではないだろうかと考え、連れて行く事を決断した。そこで、私たちは乗船させるにあたり、娘に 2 つの条件を出した。一つは、モジャコ漁から帰ったら感想文を書くこと、もう一つは持久走大会で 2 位以上となること。この 2 つを約束し、危険を承知で連れて行くことにした。

1 日目、海は穏やかで出航できたが、徐々に海が険しくなり、枕崎の港に停泊し、波が治まるのを待つことにした。その間、家族 3 人、狭いブリッジの中で家では話せないことを色々と話すことができた。

4 日目にやっと時化も治まったので、黒島を目指し枕崎港を出航した。やはり外海は内海と違って、沖にでると大きな波が幾度となく船に叩き付け、娘は船にしがみついているのがやっとの状態ではあったが、仕事を与えない訳にはいかないので、目的地までの航行中、マストに登り藻を見つける仕事を任せた。沖に出れば出るほど波は高くなり、結局、娘はマストから降り、船べりにしがみつながら私たちの漁を見守っていた。娘にとっては、海が荒れたからこそ、私達の仕事の大変さ、厳しさを自分の目、耳、心で受け止め、また、両親への感謝の気持ちを体一杯で受け止めることができ、私達の選択は間違っていないと確信した。

モジャコ漁から帰った翌朝、テーブルの上には「海から教わったこと」と題した作文が置いてあり、早速、約束の一つを果たした。2 つ目の約束は時化の為、帰港予定が 5 日間遅れ、持久走大会は不参加となり叶わなかったが、娘の漁業に対する理解度が増したことで、学業以上の成果があったと、私達は喜びと併せて漁業に対する元気を貰い、家族の絆も一層深まった出来事であったと言える。

また、夫婦で漁業を行うことによって、夫の精神的な負担も軽くなるとともに、家族の絆も確固としたものになったと感じながら漁業に勤しんでいる。

6 波及効果と今後の課題や計画

私の夢は、以前のように魚を満船にし、大漁旗を元気よくたなびかせながら伊唐港に帰港することである。主人は一時体調を崩したが、順調な快復を示しているため、近い将来きっと夢が実現できるものと、希望を胸に頑張っているところである。

最近では、漁獲量が減った上に魚価も下がるなど(図 6)、プラスの話はあまり耳にしない状況であるが、私なりに何か元気を取り戻すきっかけになればと、平成 8 年に東町で開催された NHK のど自慢大会に思いきって出場し(写真 2)、特別賞を頂いた。私の周りでは勿論のこと、私の住む東町も又、水産業界も今、元気が無いような気がしてならない。これからは、今流行の「ハッスル・ハッスル」の精神で、今後迫りくるであろう荒波や幾多の困難を、家族一丸、地域一丸、そして業界一丸となって乗り越えていきたいと思っている。そして、今後とも資源管理や魚礁の設置等、更なる水産振興策が講じられ、私達のような夫婦船が永遠に続けることが出来るように願っている。

今後は漁協女性部活動についても積極的に参加し、魚食普及運動(写真 3)や地域特産の

ブリ、タコ、アオサの他、さまざまな魚に付加価値をつけた料理講習会などを行うと共に、海の恩恵を受けている私達が、環境保全運動を私達母親の意識改革で、行政、異業種、地域と一体となり、子孫に自信と誇りを持って母なる海を譲り渡していきたいと考えている。そして、一般の方々に漁業への理解を深めてもらい、自らの知識も向上させながら、夢のある漁村生活をも目指して頑張っていきたいと思っている。

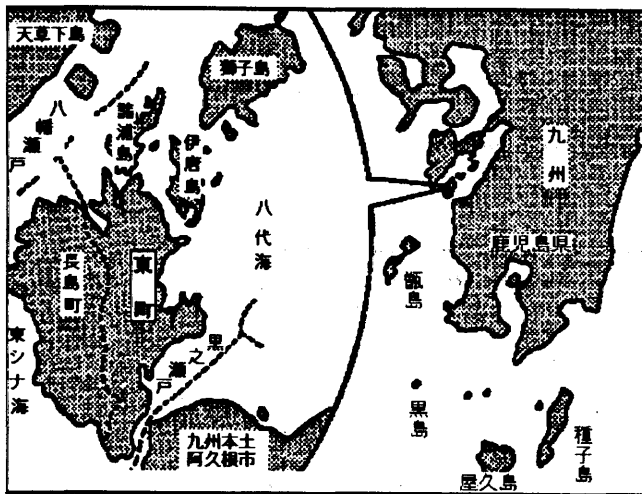


図1 東町の位置

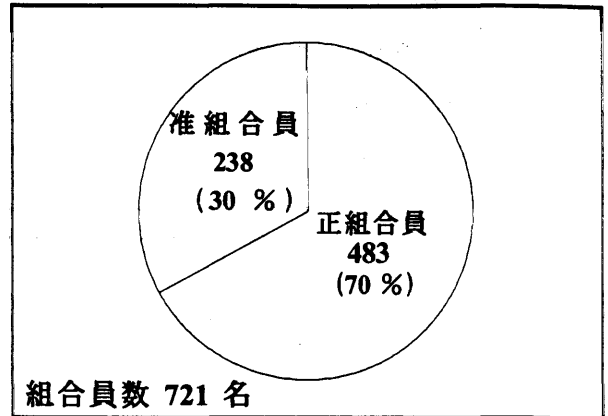


図2 東町漁協の組合員数 (H15)

表1 漁業種類別経営体数

種別	統数	種別	統数
磯建網漁業	195	固定式刺網漁業	9
魚類養殖漁業	165	地曳網漁業	8
のり養殖漁業	147	カレイ建網漁業	8
タコツボ漁業	103	潜水器漁業	7
吾智網漁業	70	底流網漁業	6
小型定置網漁業	66	まき網漁業	5
ボラ籠網漁業	54	棒受網漁業	5
シバ籠網漁業	54	機船船曳網	5
イカ追込漁業	25	ボラ建網漁業	4
エビ建網漁業	20	ワカメ養殖漁業	4
ウシノシタ建網漁業	20	キビナゴ建網漁業	3
母貝養殖漁業	12	イカ籠網漁業	1
雑魚追込漁業	11	パイ籠漁業	1

(資料:平成15年度漁協業務報告書)

表2 漁業種類別水揚げ数量及び金額

漁業種類	数量 (トン)	金額 (千円)
魚類養殖漁業	14,678	9,979,819
吾智網漁業	317	213,519
つり漁業	97	98,475
ヒトエグサ養殖漁業(乾重)	92	156,294
籠漁業	84	65,742
磯建網漁業	80	72,286
定置網漁業	60	39,138
巻網漁業	52	34,789
すくい網漁業	48	91,475
タコツボ漁業	43	39,005
根付け漁業	28	19,022
真珠母貝養殖漁業	19	28,050
イカ追込網漁業	9	9,834
延縄漁業	8	13,191
えび刺網	2	6,297
その他(他港水揚げ)	624	99,128
計	16,241	10,966,064

(資料:平成15年度漁協業務報告書)

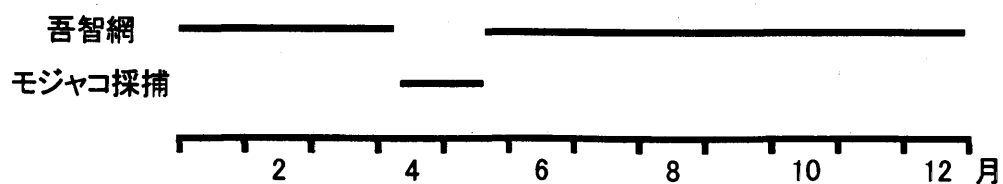


図3 年間作業スケジュール (S58頃)

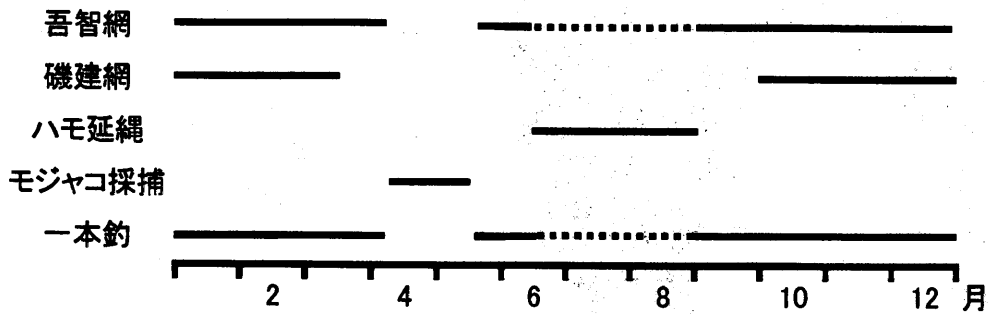


図4 夫婦船としての年間作業スケジュール

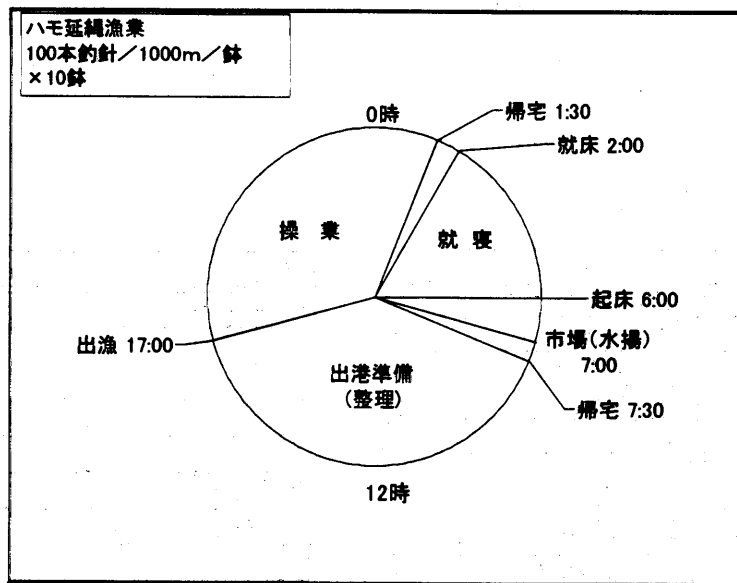


図5 ハモ延縄時における日間作業スケジュール

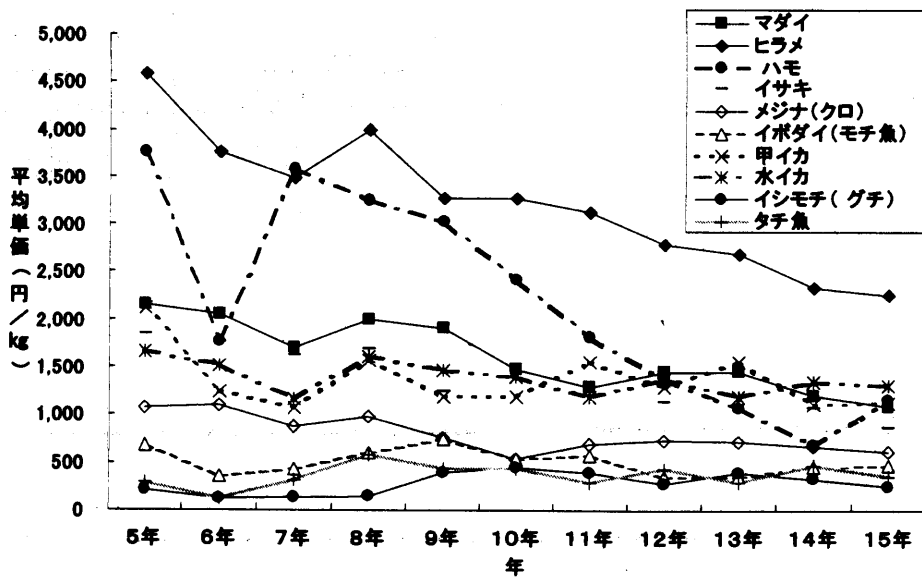


図6 東町漁協市場漁獲物平均単価の推移



写真1 鱈王



写真2 NHK のど自慢大会 (H 8 東町)



写真3 魚食普及運動